

写真の黎明

Early Works of Photography

1992年1月30日[木]—3月24日[火]

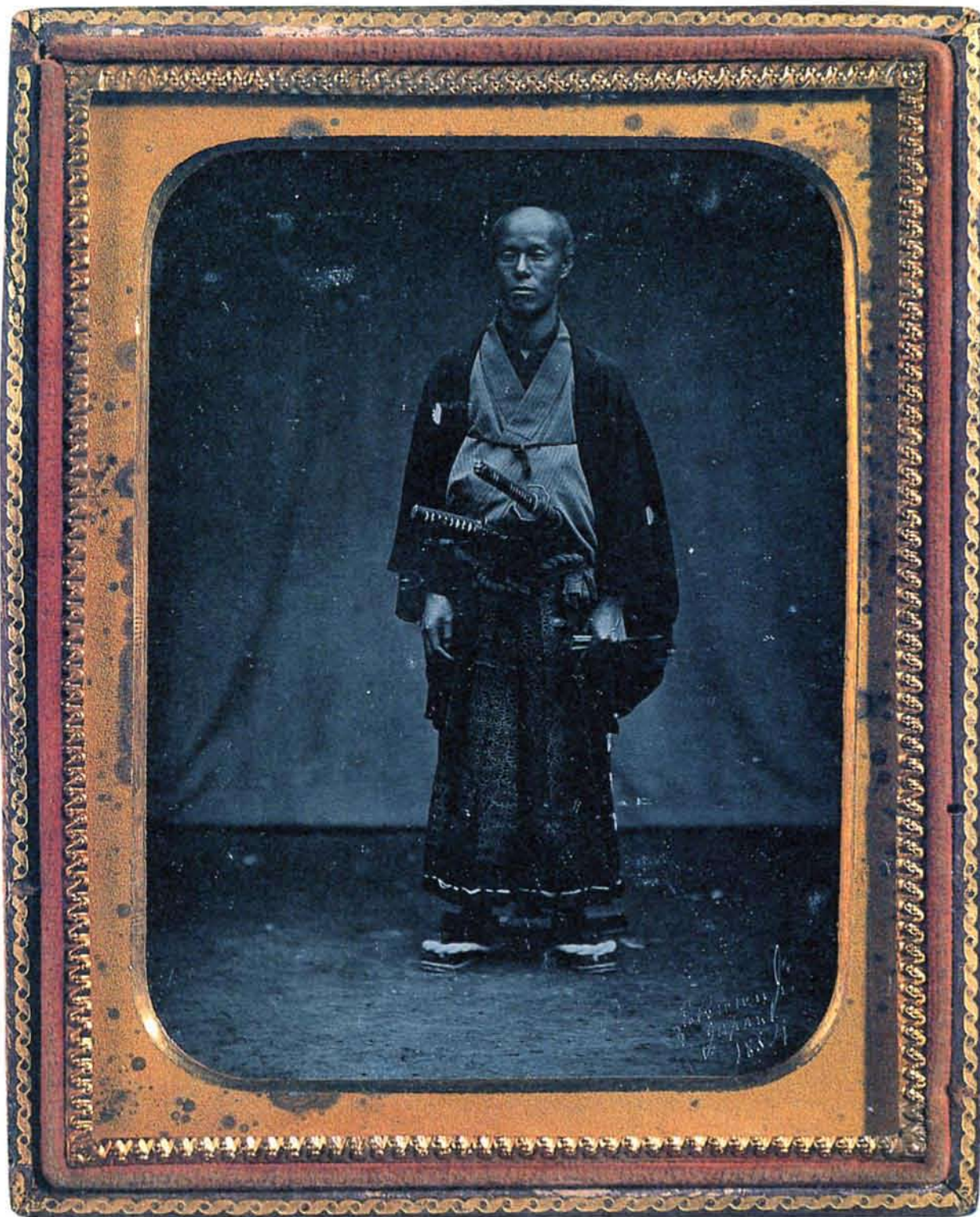
■開館時間:午前10時—午後6時(入館は午後5時30分まで) ■休館日:第2・4水曜日

東京都写真美術館

Tokyo Metropolitan Museum of Photography

主催=東京都写真美術館

■観覧料:一般・大学生500(400)円/小・中・高校生250(200)円*(1)内は10名以上の団体料金



E. プラウツ Jr. 《田中光儀像》1854



1.



2.

1839年、パリのフランス学士院において、世界で初めての写真術、ダゲレオタイプ(銀板写真)が公表されました。

眼前の風景や事象を、人間の手によらず、レンズを通して機械的、化学的に固定することが可能になったわけです。この偉大な発明は、全く同じイメージを離れた場所で共有できるなど、人々の見ることの意識に変革を与え、記録の領域においてその有用性を認められ、芸術の分野においても影響を及ぼしていきました。そして、今日では科学、文化、芸術など多種多様な分野において関係を持っており、写真のない生活は考えられないと言うことができます。

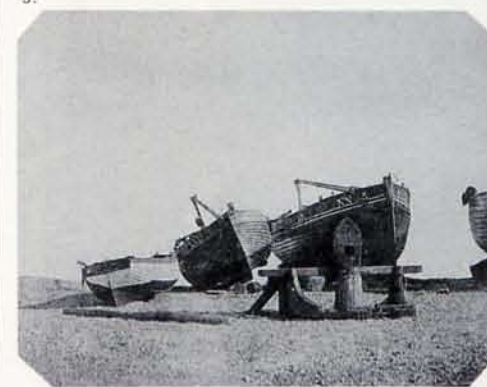
本展は、写真術が発明された最初の形

態がどうであったか、また、人々は何を考えた、という姿勢で写真と取り組んでいったか、発明以来およそ30年間の変遷を見ようとするものです。

展覧会はフランス、イギリス、アメリカ、日本の4つのパートで構成されています。長年の人類の夢である写真術は、19世紀中期に叶えられたわけですが、それまでの多くの人々の成果をもとに、発明されるべき時期にきていたと言えるでしょう。事実、フランスとイギリスで時を同じくして写真術は発明されましたが、そのプロセスは全く異なるものでした。フランスではダゲレオタイプ(銀板写真)が、イギリスではカロタイプ(紙ネガ・ポジ法)が発明されました。この2つの

技法が写真の原型といえます。アメリカへは発明された直後に伝えられ、多くの写真が残されています。また、日本は鎖国の時代でもあり、長崎を通して伝えてきましたが、撮影に成功するまで多くの研究時間を要しました。日本で最初に写された写真は、1854年ペリーの二度目の来航の時と、ロシアの軍艦ディアナ号が来航した時でした。これは、それぞれに同乗していた写真家により写されたダゲレオタイプでしたが、湿式コロディオンもその直後に伝わってくることで、写真術は急速に浸透していくことになりました。

3.



4.



5.



■講演会のお知らせ

テーマ:「アメリカにおける黎明期のダゲレオタイプ」

日時:1月31日(金) 午後4時—6時

講師:ウィリアム・F. スタッフ(ジョージ・イーストマン・ハウス 国際写真美術館キュレーター)

会場:東京都庁・都民ホール(都議会議事堂1階)

テーマ:「日本における写真の黎明」

日時:3月12日(木) 午後4時—6時

講師:小沢健志(九州産業大学教授)

会場:東京都庁・都民ホール(都議会議事堂1階)

■フロアレクチャーのお知らせ

第1回:2月14日(金) 午後4時—

第2回:2月21日(金) 午後4時—

第3回:3月6日(金) 午後4時—

第4回:3月13日(金) 午後4時—

1. L.A. ウンベール・ド・モラル《トリニティ教会の後陣、ノルマンディ地方ファレーズ》1851
2. D.O. ヒル & R. アダムソン《スコットランド自由教会のミス氏》1845
3. カルヴァート・ジョーンズ 題不詳 1850s
4. 小島柳蛙《小島柳蛙像》n.d.
5. C.D. フレデリックス《野村忠実像》1860



東京都写真美術館
Tokyo Metropolitan Museum of Photography

〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24

☎(03)3280-0031(代)

交通機関:JR恵比寿駅東口より徒歩5分
(お車のご来場はご遠慮ください)